

第2回よさの地域デザイン会議（加悦地域）を開催しました

11月2日（火）元気館農事研修室で、「第2回よさの地域デザイン会議（加悦地域）」を開催しました。「よさの地域デザイン会議」とは、持続可能なまちづくりにおける公共サービス・公共施設のあり方について、住民の方々との対話により多彩なアイデアや提案を収集する場です。

今回の会議のテーマは「施設の集約、機能の複合化」。

既にグループテーブルには、既に名刺サイズの公共施設カードが「小学校区」「旧町地域」「全町地域」ごとに整理して並べられています。カードの裏面を見ると、その施設の建築年、築年数、主な利用者、利用者数等が表示されています。

まずは、合併前の旧3町から引き継いだ庁舎、大規模集会施設、こども園・保育所、小中学校、体育館、グラウンド、テニスコート等の現状と課題について町企画財政課から情報提供を受け主な公共施設の現状を認識したあと、グループに分かれて「施設の集約、機能の複合化」について意見を出し合いました。

参加者	住民	13人、	町職員	6人、	傍聴者	1人
ファシリテーター	京都産業大学現代社会学部 教授 滋野 浩毅 氏					

【会議の様子】



参加者のみなさまからの意見の一部を紹介します

A グループ

- ◇使い勝手に応じて公共施設を集約すべき。
- ◇案外無駄な施設が多いのでは？
- ◇公民館の統合は困難ではないか？それぞれ地域愛があり、拠り所である。
- ◇単純に統合しようとしても、商業施設の場合は法律的にアウト（建築確認申請が通らない）
- ◇開かれた公共施設にする場合、セキュリティーの問題もある。
- ◇利益を生む施設にすべき。
- ◇公共施設を賃貸にすればよいのでは？
- ◇スクールバスの活用（小学生の送迎時以外は、観光で利用するなど）
- ◇文化財施設は統合できないので、ルートを作って観光資源として活用。

B グループ

- ◇公共施設を利用するにあたって制約が多い。制約を減らし利用しやすくする。そして、それなりの利用料を取る。
- ◇複合するのではなく、今あるものを活用し、お金を落としてもらえるようにする。
- ◇交通の便：悪、宿泊・食事：弱 → 滞在してもらえる仕組みづくりが必要
- ◇他にはない景色、歴史をPR、発信していく → 宿泊もついてくる
- ◇幸福度が高くお金を生む施設が理想。幸福度が低くお金がかかる施設をどのように生まれ変わらせるか。
- ◇「減らす」べきものは減らす、「+α」で成長させるものは成長させる。
- ◇与謝野町以外の観光客にいかにお金をつかってもらうか（外貨を獲得）

C グループ

- ◇会社としての視点で公共施設をどうするか。
- ◇利用率が低い施設は手を放す。
- ◇手を放し集約後、新たなサービスにより行政サービスの維持をすればよい。
- ◇大きくても地域ごとに1つでいいのではないか。例えば区単位の公民館はなくしても案外いける？
- ◇サービスの提供先を変えるのも一つ。
- ◇管理する場所は1つ。そこが利用の度に行けばよい。
- ◇遠隔管理できるシステム等を活用してコスト削減を目指す。
- ◇観光客が回れるように町バスを動かす。

D グループ

- ◇「集約」と「複合」に関して、町内外から人が集まる大きな場所（阿蘇シー・キャンプ場・運動場・体育館・食べる所・図書館など）が出来れば。
- ◇学校と学童を一緒にする。
- ◇バスの有効利用。学校送迎外で観光バスとしてツアーを組ではどうか。
- ◇公民館は祭りや災害などでも必要と考えるが、地区のコミュニティだけでなく町や町外の誰でもワークショップなど営利（悪徳商法でない）利用できる様に仕組みを変える事で、また違うコミュニティができるきっかけになる。
- ◇人が集まる「大きな場所への集約・複合」と「規制緩和による小さな新コミュニティ形成」

【感想】

- ◆旧町単位で公共施設の特色がカード（色）によってよく分かった。
- ◆沢山の施設と利用状況を初めて知った。前回の情報との統合が少しずつできてきた。
- ◆「ちりめん」というキーワードが前回も無く協議のキーワードにあっても良いと思う。
- ◆外からどうやってお金を町に集めたらよいか。
- ◆キャリアを活かして田舎でも活躍できる場所を実現できれば田舎でも働きやすい街になる。
- ◆現状（今後、人口（特に子供の人口）が減っていくこと、借金が増えること）を全町民に知ってもらい、意見を聞くべき。
- ◆公共施設を遠い近いで話し合いをするのはナンセンス



問い合わせ先

よさの地域デザイン会議事務局（与謝野町企画財政課）

電話 0772-43-9015（直通） FAX 0772-46-2851

メール kikakuzaisei@town.yosano.lg.jp